

1-イ)産業クラスターの形成、イノベーションの実現、新規創業促進、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成

意見

02_中小企業への経営支援の強化

■よろず相談(かがわ産業支援財団)との重なりがあるので、手薄な部分を圏域としてカバーするような感じで何かできないか。

■小豆島町は高松までの交通の便が悪く、講習会に参加するには長時間必要で制約時間が限られてしまう。

夜の場合は最終の船に乗れない場合もあるが、町内で行われている講習会だけでは選択肢が少ないので、高松市民限定でなく、私たちも同じ条件で参加できる事はありがたい。今以上に周知方法を工夫してほしいし、自分もアンテナを張ろうと思う。

■インキュベーション施設の整備及び企業家の交流機会の創出

空きオフィス・空き店舗・空き家などの活用&引き続き圏域内で事業を行うことを条件としての優遇など。

■圏域の中小企業での若手人材の共同での育成

集合研修や人材交流の機会の創出

(参考)地域企業人材共同育成事業事例集(経済産業省 H25-26 年度)

■RESAS ほかビッグデータのビジネスへの活用・活用支援(松岡)

■政策コンテスト(「圏域」全体の経済成長の牽引策)の開催

RESAS を活用した全国版のコンテスト、香川県のビジネス・パブリックコンペ、高松市の政策コンテストがありますが、その「圏域版」という形でアイデアの募集→政策への反映。

■子育て世代の女性専用の評価システム付きフリーランス事業

①プラットフォームとなるWEBページもしくはアプリケーションを作成

②企業・ランサー(主婦)の双方が登録

③企業がジョブ作成

④ランサーが請負申請

⑤企業がランサーを選択して契約成立

⑥サイト内ミーティングを経てジョブ完了

⑦企業が完了承認後に報酬決済

⑧双方が相手进行评估

⑨評価ポイントによる信頼性が次の仕事につながる

若い女性のためのライフブランディングが確立された地方は在住者・Iターン・Uターン層にとって魅力的です。

20・30 代の女性は子育てをしながら働きたい意思が強い傾向があります。省庁の統計や独自調査をしている統計の結果では、どれも6〜7割の女性が上記の両立を望んでいます。しかし、幼い子供を持つ女性は、社会から離れてしまうことで社会的承認欲求を満たすことが困難になり、地方はそのような方を含む女性の働き方に対する解決策の提示が十分でない状況です。母親として献身的に努めても称賛を得られ難いことは検索すれば多く見受けられ、この傾向は香川でマーケティングを実施しても同様だと考えます。

上記事業は、他にリモートワークという方法でも実施可能ですが、地方では地方の中小企業の代表は年配者が多く、監視下でない労働に対して固定給を払うという多様性のある若い経営者が少ないため、理解を得ることが難しいと考えます。しかし、成果主義的なアウトソーシングであれば、年配代表者にも理に叶った仕事として理解されやすいのではないかと考えます。

ジョブを重ねることで家庭経済も潤いますが、金銭欲求を満たすことは本質的に重要ではありません。人口減少のファクターは 20 歳から 39 歳の女性の減少です。中央一極から地方に目が向けられた時に、他から一つ抜きん出た魅力ある地域を創造していけるかどうか今後のキーになります。そして、多様な社会システムと評価システムにより若い女性の承認欲求を満たせる地域はとても豊かだと考えています。

■新規創業及び第三者事業承継のバックアップ強化

意見

03 農産物のブランド化と活性化

■香川大学農学部を中心とした新品種開発のうち、圏内の農家だけでなく商品開発まで取り組める集団が作れたらと思う。

個別には香川大学が持つオリジナルぶどう品種での取組事例があるが、その他、桃やキウイも産学官連携で取り組んでいる。

■たかまつ食と農のフェスタに出店して思うこと

PRになっていると思うが、試食や安価なものを求めるイベントになっている。生産者の思いやブランド品種をもっと知ってもらえる機会になればと思うこともある。

■町内・島内で色々力を入れて取り組んでおり、認知度は高く、小豆島のブランド農作物はオリーブになるのかもしれませんが、オリーブは野菜と違い収穫して加工しなくては食すことが出来ないので、連携が難しいのかもしれない。

オリーブ以外の農作物は、近年では醬トマトが有名です。個人の意見ですが、小豆島町は農地も多くなく、高齢化で販路拡大する農作物がないように見えますが、オリーブのほかにも、醬トマトのように特産品(醬油)とのコラボで両方の認知度を向上させるぐらいのブランド野菜を、農家さんだけでなく行政等の力を借りて出来るとよいと思う。

■直島、小豆島で(高松港以外からアクセスした人に向けての)圏域情報の発信

■地域資源発掘(あるいは活用)のコンテスト& マッチング会の開催

■学生に地域のよい情報を SNS で発信してもらう

■地域資源のブランド力強化(食品加工などにより学生や企業とも協力)及び県外へのアピール

■圏域で電子地域通貨や仮想通貨を導入し、岐阜のさるぼぼコインや沖縄で構想中の琉球コインと経済交流圏を作る。

1-エ)戦略的な観光施策

意見

07 国内外観光客向け情報発信

■特にインバウンド需要に対して、「情報発信＝WEB ページ」や、「インバウンド向け＝単に WEB ページの外国語化」という発想になっていないか、製作側の自己満足になっていないか、「発信したい事柄＝外国人が必要としている情報」となっているか、情報発信をするソースは適切か。(いくら良いHPがあっても、どうやってエンドユーザーに知ってもらうかが重要。)

■海外誘客促進事業の具体化

連携都市間での評価に関して満足度のかい離がある。

連携都市圏各々としての観光資源は理解しているものの、それぞれの都市間で理解、連携が乏しく、結局は都市各々の動きとなっている。

広域圏内での観光ルートを作成するなど、都市間での短所・長所の調和が必要。

実は、地元が見てほしい観光資源と、外国人が求めているもの間にはギャップがあるのではという観点に立っての協議が必要なのではないか。

今日の、日本へのリピーター外国人の情報収集能力は高く、自治体等の発信する情報より、旅行者同士の口コミが非常に重宝される現状がある。

■私の住む小豆島にはたくさんの特産品や観光名所があります。普段、我々が何気なく見ている風景も観光客からみると不思議に好感をもってもらえる。ここでは都会では見たこともない綺麗なものがあって、こんなに美味しいものがたくさんある、そんな視点に何かチャンスがあると思います。

地域コミュニティの強さや観光客、移住者へのおもてなしなどに更に重点を置き、あたたかい触れ合いをもちながら香川県の魅力のひとつに「人」をPR 出来れば良いなと思っております。

■3年に1度瀬戸内芸術祭が開催されているが、行政と芸術家だけでなく企業も巻き込みお金も産むシステムにしてほしい。

観光施設との相乗効果もあるが、芸術祭めぐりが中心で、観光地へ足を運ぶ時間がない人が多い。お金を掛けない世代が中心ターゲットになっている。

■観光資源の洗い出しと市・町などの垣根を越えて情報交流を強化する。

■様々なイベントの開催日時や場所がすぐ分かるような一覧があれば、それぞれの場所がにぎわうのかなと思う。

■県内でイベントが乱立しているので、各イベントのPR力強化と、流入人口の確保のため、一覧表及び調整が必要。

■観光等で来る人に向け、宿泊一覧があると便利。また、観光客には、町や市の境界は関係ないので、もっと隣接する市町村が、手を取り合っ

てイベントなどを増やす。

その他

意見

18 大学等と連携した、将来の圏域を担うリーダーの育成、産学官連携推進事業

■2-ウ)「高等教育・研究開発の環境整備」に位置づけられているが、こちらの事業の一環としても位置付けることはできるか。(→KPIは違ってくると思いますが、現在、大学が地域と連携して取り組んでいる学生による諸活動も、経済成長の牽引の一端とみなしていただくことが可能ではないか。)

■香川県と香川大学の協働で人材育成事業を行っている取組との連携の可能性もあるのではと感じている。

69 移住・交流促進事業

■各基礎自治体単独での移住促進事業では費用及び効果が限定的で、県内の基礎自治体での横連携は効果的だと考えられます。

ただし、こちらは具体的な取組や連携策について、全く触れられていないので、もう少し踏み込んだ事業づくりが必要だと考えます。

四国若者会議は高知県の奥四万十地域の移住促進策について、5市町でつくる協議会の横連携を支援し、イベント及び情報発信の連携を図っているところです。

70/71 人材育成事業、合同研修等の実施/地域コミュニティ人材育成事業

■行政の行っているこれらの研修事業については、各自治体で相互に参加し合える体制を整えた方が良いと思います。

ひとつの自治体で問題になっている事柄については、他の自治体でも同様に課題となっている可能性が高いと考えます。

各自治体で情報共有しながら相互に参加できるようになれば、学ぶ機会が多層的になり、より参加しやすくなるのではと思います。

特に研修一覧を確認できる Web 上での情報の集約及び発信と、相互に参加する体制の構築等々、具体的な連携策を可視化することが必要だと思います。

具体的にどのような協力をしていくところを可視化することが必要だと思います。

99 その他

■経済とは何か？お金とは何か？今後のテクノロジーの進化が生み出す新しい価値観とは？というテーマが個人的には好みます。それから、そこに集まる人をどのように結びつけるのかを考えてみるのも大切だと思います。何かを共に取り組むというのはシンプルでつながりやすいのではないのでしょうか。

■既存のビジョン掲載事業について、香川県独自の風土を生かしてどの分野もよく考えているなど改めて感じました。自分が知らない事もたくさんあり、今後それらの情報を若者たちに上手く伝えられるかが重要であると思います。県として何らかの形で周知する機会があると、若者たちも地域に対する意識や考え方がアップすると思われれます。

■香川大学では、2018年内に小豆島2町との協定締結を予定している。

これまでも小豆島においては、各学部で空き家の利活用や新産業創出、医療支援などを行ってきているが、今後は定住や移住促進、県外大学との交流事業、害獣対策などを全学を挙げて取り組む方針であり、長期的には小豆島に限らず、各自治体においても展開を行う予定である。

現在、各地域では個々に活性化の取り組みを行っているが、横との連携や他業種との交流が乏しく、一定規模以上には大きくなり得ない状況にあることから、これからは既存の取組の融合を図り、相互の交流と信頼関係を構築しながら産学官連携の輪を大きくすることが有効ではと考える。

■自然の中で子どもたちが遊べる場所

子どもをこの場所で育てたいと思えるような環境づくり

■自然環境の整備強化が、観光資源としても、子ども教育においても必要と考える。

■こどもへの犯罪抑止システム

■大学の研究機関を誘致する。

■頑張る若者、企業の後継者また働くお母さんがこれから必要不可欠な存在に更になるので、この層が増える環境づくり。

大手企業や大学と提携できるような支援。子育て世代が安心して働ける環境づくりと意識づくり。

地方になればなるほど、職業、働き方、遊ぶ場所などの選択肢が限られる。都会の選択肢とは違うが地方らしい選択肢が増える工夫。

こんな働き方できるよ～やこんな支援があるよ～などの周知づくりは必須かと思う。

■連携中枢都市圏のポータルサイトの充実

イベント情報の一覧化、認知度の向上なども課題ではないかと思えます。(アクセス数は分かりませんが、サイトを見たところ、facebook のフォロワー14人、いいねが12だったので…)。

■会議でも発言させていただきましたが、KPI 指標の設定について、もう少しインパクトを効果的に評価できるよう、工夫された方が良いかと思えます。

■今の現状に満足している市町村はなく、少子高齢化はもちろん色々な課題を抱えている。

事務局への質問が多かったが、それよりも参加メンバーで意見を出し合える場なればと思う。